



のき かがやき

第50号

平成27年1月発行

発行・編集

特定医療法人新仁会 奈良春日病院

奈良市鹿野園町1 2 1 2-1

TEL : 0742-24-4771 FAX : 0742-27-5873

H.P : <http://www.narakasuga-hospital.or.jp>

E-mail : info@narakasuga-hospital.or.jp

病院理念

我々は、新しき科学技術に基づき、深い人類愛を心に、熱き情熱を持って医療に専念し、地域に愛され信頼される病院になる事を目指す。

病院の基本方針

- 1、医療は究極のサービス業と位置づけ、ご利用者の満足度を高める努力をします。
- 2、ご高齢者の専門性を重視した医療を行います。
- 3、安全と安らぎのある療養環境を提供します。

職員の行動指針

- 1、優しさと思いやりの医療を実践する。
- 2、医療を行うプロとして知識と技術の向上に努める。
- 3、互いに理解し合い誇りある職場をつくる。

目次

- 日本慢性期医療学会に参加して
- 外壁工事
- デイケア通信
- グループホーム便り
- 健康と介護
- 創刊50号に寄せて
- 編集後記

おかげさまで

創刊50号

発行することになりました

奈良春日病院関連施設

春日グループホーム 雪・月・花

奈良市白毫寺町900-1
TEL : 0742-20-7227
FAX : 0742-20-7228



訪問看護ステーション こまどり

奈良市鹿野園町1212-1
TEL : 0742-23-6599
FAX : 0742-23-6599



通所リハビリテーション 青春広場

奈良市鹿野園町1212-1
TEL : 0742-24-4771
FAX : 0742-27-5873



● ● ● 日本慢性期医療学会に参加して ● ● ●

私達は11月に熊本で開催された日本慢性期医療学会に病棟代表2名で参加させて頂きました。学会のテーマは「最期まで満足する介護・看護・医療」で全国から約2000人が参加され、慢性期病院での様々な取り組みが発表されました。私達は、病棟で経管栄養の患者様がもう一度口から食べるところが出来ようになった取り組みの発表をさせて頂きました。

当院では摂食困難で口から食べることができず、経管栄養をされている患者様が半数近くおられ、病棟でも長期にわたって経管栄養をされている患者様がおられます。身体の状態が安定すると「口から食べたい、食べさせたい」という患者様、家族様、スタッフの思いが強まって今回の取り組みを始めました。経管栄養の患者様が安全に口から食べて頂く為には訓練が必要です。対象となる患者様をしっかりと判断して、言語聴覚士をはじめ他の専門職種の方々と連携を取り患者様のペースに合わせながら訓練を進めていきました。その結果、完全に口から食べることが出来るようになった患者様が少しずつ増えています。そして自分で食べることが出来る

ようになり退院された患者様もおられます。私達は「口から食べること」を通して患者様や家族様の喜びを身近に感じる事が出来ました。今後、更に一人でも多くの患者様に口から食べる喜びを感じて頂けるように他職種との連携を図り、技術の習得や知識の向上に努めていきたいと思います。そして今回の学会に参加させて頂いた経験や学んだ事を今後、看護ケアに生かして行きたいと思っています。有難うございました。

本館5階病棟

和田 文子
川畑 祥代



外壁工事

当院は、昭和55年12月に開設され35年を迎えました。本館外壁のタイル張り仕上げは長年の風雨により、浮き、ヒビが生じてきております。そこで、既存のタイルを撤去せず、産業廃棄物を出さない環境に配慮した工法で、約6ヶ月を掛けて本館外壁の改修工事を行っております。

工事終了の予定は平成27年5月中旬となっております。工事の騒音等では皆様に大変ご迷惑をおかけしていることかと思いますが、工事期間中は十分に安全を確保し、患者様のプライバシーにも配慮いたします。何卒ご理解ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



デイケア通信 青春広場 vol.42

デイケアセンターでは、12月16日(火)と17日(水)の二日間、クリスマス会を開きました。

フロアには職員が変装したサンタクロースが登場し、プレゼントのビンゴカードが配られビンゴ大会が始まりました。ビンゴになった方から順にサンタクロースからプレゼントが届けられ、色々なプレゼントに歓声が上がり、皆様楽しんで頂けた様子でした。

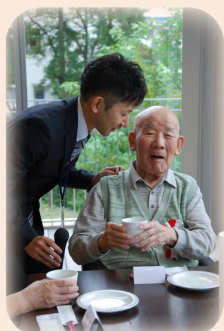


ビンゴ大会の後は、皆様と一緒にクリスマスの唄を歌ったり、カステラやホットケーキにフルーツやホイップクリームでデコレーションをするクリスマスケーキ作りをおこない「良かったわ」、「来年が楽しみ」と大好評でした。

今後も色々な行事を企画して、ご利用者様に喜んで頂けるよう努めていきたいと思ひます。

春のグループホーム 雪・月・花 vol.43

平成26年の「家族会」を今年も開催させて頂きました。今年の開催場所は、近隣の佐保短大の敷地内にあるレストラン「鹿野園」でした。グループホームから車で5分程の近距離にある為、移動などスムーズに行う事が出来ました。開催にあたり久富院長より挨拶があり、その次に恒例となりましたが男性入居者様に乾杯の音頭をとって頂きました。それから和やかな食事会が始まりました。その合間に「一年の歩み」と題したスライドを上映した後、最後に会場の皆様で懐



かしい歌を唄い名残惜しい時間はあっという間に終わりに…。

約2時間程の短い時間ではありましたが、入居者様と家族様が楽しいひとときを過ごして頂けたなら幸いでした。年に1回開催のこの会も今年で10回目となりました。又明日から気持ちを新たに日々真心を込めて努めて参ります。

健康 & 介護

Vol. 20

「知っておきたい認知症」



～健忘症（物忘れ）と認知症の違い～

■ 脳の老化による物忘れ

健忘症（物忘れ）と認知症は違います。健忘症とは体の生理的な老化により起こる物忘れのことで脳の老化により、記憶力や思考力が低下して起こる状況のことを指しています。具体的には、「直前に覚えていたことを忘れてしまう」ということがあります。

■ 健忘症の症状

例えば、「何を買うかあらかじめ決めておいたものの、買い物に出かけて、何を買う予定だったかを忘れてしまった」とか「物を取りに行こうとしたのに、何を取りに行くはずだったかを忘れてしまう」という日常生活でよく起こりうる物忘れです。

健忘症（物忘れ）の特徴は、物忘れをしてしまったことを自覚していることにあり、最近物忘れがちになったと思う場合は、健忘症と言えるでしょう。

■ 認知症の症状

対照的に認知症は、忘れてしまったことそのものを忘れてしまう症状を指します。

例えば、「朝ご飯を食べたのに、食べたことすら忘れてしまい、またご飯を食べようとする」という行為がそれに当たります。さらには「家族の名前はるか、なぜ自分がそこにいるのかさえ忘れてしまう」という極端な例さえあります。



このように認知症の場合は、健忘症と違い、自分が忘れていたと言う自覚さえ無いのが特徴です。そのことを指摘すると激怒したり、自分は間違っていないと正当化しようとする特徴も持ちます。

創刊 50 号に寄せて

月日が経つのは早いもので、今回で 50 回目の発行となりました。今まで続けてこれたのもひとえに皆様の暖かい励ましの賜物と感謝しております。これからも皆様のお声を励みに続けたいと考えております。今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

編集後記

毎年この時期にはインフルエンザやノロウィルスが流行しますが、奈良県では 12 月中旬にインフルエンザ流行注意報が発令されました。手洗いやうがいはもちろんのこと、外出時にはマスクを装着するなどして感染予防に努めましょう。